



刻もう」と語りかけ、関根秀樹理事長も祝辞で「教育と文化の発展の実現のために青春の情熱を燃やせ」と激励しました。また開学20年目の節目に「新たな歴史と共に」と力強く抱負を披露しました。

希望に胸膨らまし緊張気味の新入生に、平山征夫学長は式辞で「学ぶことの楽しさを知つて主体的に学び、考える力を養い、目的意識を持つて自由で秩序ある生活を送り、豊かな人間性を育み、友人と大いに夢を語り、そ

利益よりも世界に貢献できる人材に成長したい」と判断し、一国の情報を正しく理解し、斎藤仁美さんが「世界にあふれる



主体的に楽しく学べ 青春の情熱を燃やそう

平成25年度の入学式が4月1日、本校体育館で行われ新入生312人（情報文化学科122人、情報システム学科190人）が、前途を祝うような素晴らしい青空の下、みずき野キャンパスでの学生生活をスタートさせました。

在学生を代表し情報文化学科の大沼竜二さんが「勉学も研究もクラブ活動も大いに楽しむぞ、という気概で臨んでください。自分から考え行動し多くの人と関わり充実した学生生活を送りましょ」と歓迎の辞を贈り、新入生代表の情報文化学科の大沼竜二さんが



CONTENTS

2・3・4・5面

平成25年度入学式特集
学長式辞 理事長祝辞
新入生代表・私の抱負
在学生代表・歓迎の言葉

新任教員紹介
退職教員あいさつ
教員の活動報告
6・7面
新入生に向けてメッセージ
学部長・両学科長の激励
サークル紹介（写真部）

オープンキャンパス案内
8・9面
派遣留学・
海外夏期セミナー帰国報告
10面
卒業にあたって・
多くの出会いと感謝

湧源・編集後記に代えて

11~14面

平成24年度卒業式特集
学長式辞 理事長祝辞
JABEE認定8人に修了証書
卒業生総代答辞
式典スナップ 特別表彰

入学式

学長式辞

新潟国際情報大学長
平山 征夫

ことになるわけです。

本学は幸い多くの先輩教職員、卒業生たちの努力もあって、この20年という比較的短い歴史のなかで多くの有能な卒業生を輩出することができ、地域からも信頼される大学として評価されてきました。いつそう地域から頼りにされる大学へと発展できますよう、皆さんに大いなる期待をしているところです。また大学としましても20周年を機にさらなる発展のための大学改革を行うこととしているところです。

新入生の皆さん、本学への入学おめでとうございます。本学役員、教職員一同を代表いたしまして、皆さんに心からお祝い申しあげますとともに歓迎申します。

本学では平成6年の開学以来、毎年このみずき野キャンパスに春とともに新入生を迎えてきましたが、皆さんはちょうど20回目の新入生です。私としましては感無量の思いと大きな喜びを持つてこの入学式を迎えてきました。

皆さんはこれからこのみずき野キャンパスで4年間の大学生活を送るわけですが、入学式に臨み今は期待と不安で胸がいっぱいのことがあります。でも心配することはありません。私どもは教職員挙げて皆さんがあくまでスムーズに大学生生活に溶け込めるようサポートしてまいりますので、分からぬこととは遠慮なく質問し、1日も早く有意義な大学生活が送れる体制を築いてください。

冒頭申し上げましたように、本学は本年開学20年目を迎えます。人間でいえば成人式を迎えるということです。今日からは成人したこの大学の新たな歴史を一緒に刻むことになります。

第1のお願いはしっかりと勉強してください

開学20回目の新入生
共に新たな歴史を刻もう

自ら学ぶという生活習慣を身に付けることが重要です。それができないと授業に付いてゆけず、欠席しがちになってしまいます。学ぶ習慣をきちんと身に付け、学ぶことの楽しさを知つてください。

私は「大学は魚に泳ぎ方を教えるところだ」と言っています。もともと泳げる魚に泳ぎ方を教えるのは、より正しい泳ぎ方を教えることで、魚が自らの力でより力強い泳ぎ方を身に付けるからです。もともと皆さんは学ぶ力を持つていて、その力を最大限引き出しがが大学の役割だと思つています。入学後できるだけ早く泳ぎ方の基本を身に付け、自分で泳ぎだしてください。

もう一つのお願いは、できる限り幅広い思考のできる人間になるよう心掛けてください。大学では単に知識を得るのではなく、考える力をつけるために

学んでくださいと申し上げました。また、学び・考えることを通じて豊かな人間性を身に付けてくださいとも申し上げました。

そのためには深く専門分野を学ぶことと同じ興味を持つて取り組んでください。クラブ活動や、先生や友人との人間関係からも育まれるでしょう。積極的に部活や友人づくりにも取り組んでください。入学式の最後に本学の校歌が歌われますが、その中に「あこがれを空に描いて 友と歩もう」という歌詞があります。まさに本学で皆さんは豊かな人間性を育み、友人と互いの夢を語り、その実現のために学んでください。

経済学の父といわれるアダム・スミスは「国富論」のほかに「道徳感情論」という本も書いています。スミスはその著書の中で「世の中には弱い人と賢い人がいる。弱い人は世間一般の評判を重視する自惚れや野心を持つた人間で、経済的に豊かになれば幸福になれる」と考えている。賢い人は自分の中にある偏りのない観察眼に従つて、公正で醒めた判断と行動のできる人間で、人間の幸福感が経済的豊かさとは比例しないことや虚榮心の無意味さを知つています」。

スミスはこの二つの人間の類型について、「実は野心と虚榮心に突き動かされている弱い人が、他人から賞賛されたい、注目されたいと考えてきたからこそ、そのエネルギーによつて経済社会は多くの富を生み出してきた」とも言っています。確かに世の中の人々が皆良寛さんのように無欲では経済は成長しないでしょうが、豊かさのみを追い求める人間ばかりでも困ります。皆さんはどうちらのタイプの人間を目指しますか。私は大学で皆さんには「人間はどう生きるべきか」をテーマに幅広く学んで、そして賢い人間としてどう生きるかを考えてほしいと思います。

明日から大学生活が始まります。それは高校生時代とは全く違ひ限りなく自由なものです。でも自由ということは、授業に出来る責任があります。学生の本分は学ぶことです。私たちも全力で皆さんの教育指導に当たります。でも何といっても学ぶのは皆さんです。

いとすることです。大学では高校までのよう

自己管理をしつかり行い、計画的な大学生生活を送ってください。そのためには4年間で何を修得するか目的をたて、それを達成するための計画を作つて、それに向かつて日々有意義に過ごしてほしいのです。授業を聞き、復習することはもちろん、さらに自己研究したり、語学をマスターしたり、資格修得を目指したり、部活で汗を流したり、多くの選択が大学生活にはあります。目的意識を持ち、秩序ある大学生活を送つてください。

4年後の社会を見つめて 知力、学力、生き抜く力を



学校法人 新潟平成学院
理事長 関根 秀樹

本日、入学された皆さんに「おめでとう」と心から申し上げます。若々しく、元気溌剌とした諸君をお迎えし、本学を設置いたしました学校法人としても大変うれしく存じます。皆さんの背後にあつて、その成長を見守つてこられたご父母の方々にもお喜びを申し上げます。

さて、いまの時代、政治も経済も諸外国との関係の重要性が一段と増してきています。こうしたますます進む国際化の時代には、幅広く国際的な視野に立つて考え、行

動できる人材が求められます。企業もとの
ような人を求めているかと、一つは、
異文化を理解し、英語で表現でき、世界の
中で活躍できる「グローバルな人材」です。
もう一つは、情報システムや情報技術を活
用して「イノベーション」を起こすことが
できるような専門家や起業家であります。
このような人材を、この新潟の地で育てて、
将来にわたり経済産業界で活躍させたい、
貢献させたい、との希いをもつて本学は創
設されたのであります。平成6年の開学で
すので、本年はちょうど20周年の一つの区
切りの年になります。21世紀の時代の要請
に応えた高等教育機関であり、教育研究を
はじめ文化の発展にいつそう寄与していく
たいと考えております。

るもので、もちろん知識も学力も重要ですが、これから時代は知識以上に不可欠なのは決断力や不屈の精神力、生き抜く力ですから、大いに切磋琢磨して自らを鍛えてください。

また、勉強以外にもいろんなことに挑戦してください。スポーツをはじめ文化・サークル活動、ボランティアなどを通じて多様な人とぶつかり合つて力を伸ばすことがあります。そして青春を謳歌して楽しんでください。

本年に入つて、わが国も政治的にはいくらか安定し、経済も回復の兆しが見えてきましたが、東日本大震災と原発破壊から2年を経過したものの、その後の復興、復旧は遅々として進んでおりません。

少子化は進み、社会保養の基盤

も勉学意欲は持つていてください。一緒に悩み相談に乗ってくれる人がいることを忘れないでください。

私たちは20周年の記念事業として、学生会館の建設や奨学金制度の充実等を計画しています。皆さんのキャンパスライフがより充実したものになるよう願つてであります。このみずき野の豊かな自然の中で、越後平野の四季の移ろいを感じながら充実した大学生活を送り、「青春の夢」の実現に向けて情熱を燃やしてください。

東日本大震災から2年が経過しましたが、思うように復興は進まず、不便な生活を送っている人たちがまだたくさん居られます。また被災のため大学進学がままならなくなつた若者もいます。こうした被災者の方々を思いやる気持ちを持ち、学ぶことのできる喜びを自覚してください。

本学では挨拶運動を行っています。大学内ではお互い元気な声で「おはようございります」「ここにちは」と挨拶します。挨拶から信頼しあう人間関係が生まれます。今日から皆さんは私たちの仲間ですから、挨拶し合いましょう。そして良い人間関係を築きましょう。皆さんの颯爽とした大学生活ぶりを楽しみに学長としての歓迎の挨拶といたします。

るものです。もちろん知識も学力も重要ですが、これから時代は知識以上に不可欠なのは決断力や不屈の精神力、生き抜く力ですから、大いに切磋琢磨して自らを鍛えてください。

また、勉強以外にもいろんなことに挑戦してください。スポーツをはじめ文化・サークル活動、ボランティアなどを通じて多様な人とぶつかり合つて力を伸ばすことが大切です。そして青春を謳歌して楽しんでください。

本年に入つて、わが国も政治的にはいくらか安定し、経済も回復の兆しが見えてきましたが、東日本大震災と原発破壊から2年を経過したものの、その後の復興、復旧は遅々として進んでおりません。

少子化は進み、社会保障も財政も屋台骨が揺らぐ、先の見えない時代の中に私たちにはあります。そんな中で4年後には社会人として本学を卒立つことになります。どんな目的を持つて、どんな仕事に就くか、どんな人生を生きることになるのか、自分の選択に懸っています。それぞれの学科で専門分野の知識や技術を高めることにより、このみずき野での4年間が有意義であつたと思える学生生活を送つてください。それぞれの目標実現に向かって、これから奮闘と努力を期待し、歓迎のご挨拶いたし

毎年こうしたお願いと併せてもうひとつお願いをしています。あまり入学式にはあまり入らなくなってしまったので、学生諸君だけではなくご父母の方々にも一緒に聞いていただきたいたいと思います。それはこうして期待に胸を膨らませて入学しながら、途中で休退学する学生がいることです。経済的理由による休退学者もこのところ少し目立つてますが、勉学意欲の喪失、実質は授業についていけないという理由が一番多いようです。極めて残念なことです。しかもよく観

ますと、もつと早く相談してくれれば何とか休退学にまで至らずに済んだケースが結構あります。私としましては極力こうした事態に至らぬよう大学も全力で皆さんとの相談に乗つて問題解決に努めたいと思いますので、どうか悩みを抱え込まず前広に相談してください。多くの場合が自由すぎて自分の目的が定まらず、勉学習慣が身に付かず授業についていけなくなり、登校しなくなるというケースが多いようです。そんな状態になり始めたら、すぐにゼミの先生か

学務課の担当者、学生部、学習指導委員の先生など、どこかに相談してください。ご父母の方々にもよくお子さんと大学生生活についてお話し下さい。よく見守ってください。ゼミなど欠席が続いた場合には大学側から連絡させていただきます。不幸にして途中で家庭事情の変化で勉学の継続が難しくなった場合にも相談ください。大学は勉学意欲を持つた学生が何とか学び続けられるよう最大限対応を検討してまいります。どんな事態になつても勉学意欲は持つていてください。一緒に悩み相談に乗ってくれる人がいることを忘れないでください。



新入生代表 情報文化学科
斎藤 仁美

あふれる情報を理解し判断し
世界に貢献できる人材に育ちたい

桜の蕾もふくらみ、川面に春の日差しが
躍る季節となりました。
本日は、私たち新入生のために、このよ
うな素晴らしい入学式を挙行していただき



在学生代表 情報文化学科
大沼 龍二

歓迎の辞

皆さんの入学を、在学生一同心から歓迎
いいます。また、御臨席いただきました多数の
保護者の皆さん、おめでとうございます。

勉学、研究、クラブ活動を楽しみ
自分から考え方行動の幅を広げよう

新入生の皆さん、御入学おめでとうござ
います。また、御臨席いただきました多数の
保護者の皆さん、おめでとうございます。

皆さんの中から、今からでも構いません。

まして、誠にありがとうございます。また、厚
く御礼を申し上げます。

现代社会は、コンピュータが世界の隅々

まで普及し、インターネットによって、情
報が一瞬にして世界中を駆け巡る時代とな
りました。私たちは、そのような社会の中
であふれる情報をそのままのまゝにせず、
自ら正しく理解し、判断する力が求められ
ています。先生方の教えを請いながら、自
らの倫理観や判断力を身に付けていきたい
と思います。

また、私たちは今世界で起きている諸問
題について、広い視野でとらえ、その解決に
ついて自ら考える力が求められています。
環境問題や民族問題、貧困問題など世界中
の人間が手を取り合つて問題解決をしてい
かなければなりません。ますます国際交流

がふれる情報を理解し判断し
世界に貢献できる人材に育ちたい

ます。また、私たちは今世界で起きている諸問
題について、広い視野でとらえ、その解決に
ついて自ら考える力が求められています。
環境問題や民族問題、貧困問題など世界中
の人間が手を取り合つて問題解決をしてい
かなければなりません。ますます国際交流

たします。

さて、新入生の皆さんには新潟国際情報大
学の学生として、これから4年間の大学生
活を送ることになります。今日はその第1
日目です。今、どのようなことを考えてい
ますか。分からぬ不安を抱えている方もいらつしや
ると思います。しかし、大学は端的に言え
ば「楽しむ」場所です。勉学、研究を楽し
み、友人たちとの交遊を楽しみ、クラブ活
動を楽しみ、教員やさまざまな大人たちと
の関わりを楽しむ。自分で大学の外から樂
しむものを見つけてくるのもいいと思いま
す。そういった「楽しむ心」をこの大学生
活でモノにし、社会に出てからはもちろん
人生を終えるまで持ち続けてほしいと私は
思います。

前置きが長くなりましたが、これから大
学生生活を送る上で大切なことを二つ、新入
生の皆さんにお伝えしたいと思います。悔いの無い
四年間を送れると思います。

前書きが長くなりましたが、これから大
学生生活を送る上で大切なことを二つ、新入
生の皆さんにお伝えしたいと思います。悔いの無い
四年間を送れると思います。

が必要となるでしょうし、国際感覚や異文
化理解が求められるでしょう。一国の利益
よりも、全世界の人々の幸せを追求してい
かなければなりません。私たちには、平和
で子どもたちが安心して暮らせる地球を後
世に残す責務があります。

今私は学力においても、人間的にもま
だまだ未熟で、勉強しなければならないこ
とがたくさんあります。学生同士で切磋琢
磨し、見識豊かな先生方から教えを受けて、
世界に貢献できる人材に成長していきたい
と思います。そのために全力で学問に精進
してまいります。

先生方の厳しいご指導をお願いし、入学
生を代表いたしまして抱負とさせていただ
きます。

「大学生生活を楽しむぞ」という気概でどう
か臨んでみてください。ただし、目標も立
てずただ楽しいことだけを追い求め、やら
なければならないことをないがしろにして
はいけません。また、人に迷惑をかけでは
いけないことは、言わずもがなです。自分
はこの大学生活の最後にどうなつていれば
よいのか、それまでにやらなければいけな
いことは何かを把握し、行動に移した上で
思いつきり楽しんでください。悔いの無い
四年間を送れると思います。

一つは、「自分から考え自分から行動す
ること」です。高校までと違い、大学生に
は自分で決めなければいけない物事が多く
あります。また、与えられている時間も膨
張します。

4)委員・社会的活動・記事・その他

内田 亨(情報システム学科・教授)
・(2013年2月26日)新潟県農業共済組合連合会コンプライアンス委員会(新潟市)
越智 敏夫(情報文化学科・教授)
・(2013年2月)書評「佐野誠『99%のための経済学・教養編』新評論」共同通信配信各地方紙
・(毎月第4土曜)「特別編集委員の目」「時々草々」「新潟日報」

佐々木 寛(情報文化学科・教授)
・(2012年12月16日)コメント・解説「JRN総選挙スペシャル2012——私たちは何を選んだのか」B-SNラジオ
・(2012年12月22日)インタビュー「県内識者と考える衆院選」「新潟日報」
・(2013年3月25日)論説「『空っぽのナショナリズム』から平和を守るために」「I 女のしんぶん」第1072号

小林 満男(情報システム学科・教授)
・(2012年12月19日)「平成24年度第2回新潟市水道事業経営審議会」(新潟市)
・(2013年1月30日)「新潟市下水道事業公営企業会計システム再構築、業者選定に関する意見書」(新潟市)

小宮山 智志(情報システム学科・准教授)
・(2012年度より継続)佐潟観光プロジェクトチーム

3)競争的資金獲得研究

近山 英輔(情報システム学科・准教授)

・(2013年4月~2014年3月)研究課題「大規模ゲノムデータを基盤とした情報解析手法の開発」
新潟大学脳研究所共同利用・共同研究(代表)

新任教員紹介



谷本 和明 情報システム学科 教授

担当科目 マーケティング、商品企画、ベンチャービジネス
研究分野 逐次的経営戦略のための標準化された経営モデル、戦略的意思決定モデル、スマートコミュニティの構築と評価モデル、効果的な起業支援
略歴
1984年 UCLA Anderson School of Management助手
1989年 株式会社国際リサーチアカデミーコンサルタント、パートナー、COO
2003年 英国国立ウェールズ大学 大学院MBAプログラム 教授
2010年 長崎総合科学大学 情報学部経営情報学科 教授
大学院工学研究科 博士課程 総合システム工学専攻 M○合、D○合教授
大学院新技術創成研究所 教授 兼担
産官学連携センター 教授 兼担

大です。要するに、自由です。自由の中で選択肢があまりにも多いので、自発的な思考、行動に迫られると思います。ところがこの選択肢が多いことに気付かないまま、大学生活を送る人が意外と大勢います。ぜひこの言葉を常に念頭に置いてください。そして特に、大学の外へ積極的に行動の幅を広げることをお勧めします。

もう一つは「人との関わり、つながりを広げること」です。皆さんに困難に当たったときや、何か協力をしてほしいとき、誰かとつながつていれば必ず助けてくれる人が現れます。また人の関わりは常に自分に何かをもたらします。いいことばかりではありませんが、最後に自分を成長させて

くれるのは人との関わり、つながりです。

大学生活の最初は、人間関係を広げようとしてもなかなかうまくいかないと思います。ただ、一番手取り早い方法があるのをお教えします。クラブ活動に参加することで、先ほど「大学生活は自由」と言いましたので本当はあまり言えないのですが、これだけは一番強くお勧めいたします。どのクラブでも構いません。いくつでも構いません。今、皆さんのがこの入学式を終え外出すれば在学生が皆さんを自分のクラブに引き入れようと待ち構えています。この大学には公式のものだけで50近くのクラブ団体があります。ぜひ同じことに興味がある仲間たちと関わりを持つてください。そし

てそこからさらに輪を広げていってください。

これから先、大学生活を送つていけばさまざまなもの、出来事、人にお会いします。でも多くあります。それでも決して目を背けず、それら全てをひとつ残らず吸収してしまってください。そして、自分だけの大学生活をつくり上げていってください。

皆さんの入学を心から祝福し、これから大学生活が充実したものになることを願って、歓迎の言葉とさせていただきます。

NU-Isを去るにあたつて



情報システム学科 准教授

吉田 博

域活動、イベント、ボランティア、旅などさまざまな学外活動に挑戦してください。外に目を向け、いろいろな人々と出会い・交流してください。

初めてのことは、不安やリスクを伴いますが、体験を通して学び、新たに発見する

し伸べ、背中を押してあげください。前へ一歩進むようサポートする制度・システムを整えてください。

私自身の経験でも、学外での活動機会を紹介することで、自分らしく意欲的に現場に飛び込み、成長した学生と出会うことができました。

本年3月末に7年間勤めました。本校を退職しました。

本学に勤務の前はビジネスの世界にいましたので、当初は多少戸惑いを感じましたが、若い学生の皆さんと充実した時を過ごすことができました。

大学生活は時間的、精神的に極めてフリーです。ぜひこの状況を生かして、学問はもとより学外実習、海外留学、地

自分らしく前へ一歩を

した。

本年、開校20周年の節目に当たります

皆さんのご尽力で、次代を担う若い人材が生き生きと国内外に巣立っていくことを期待しております。

共に学び・楽しんだ学生の皆さん、お世話になつた教職員・関係者の皆さんありがとうございました。

記憶に深く刻まれ糧になりました。時として、将来の方向を決めることにもなります。若い学生の挑戦に、教職員・保護者の方々はぜひ手を差

教員の活動 (本人申告による)

1) 研究論文・図書

小林 元裕(情報文化学科・教授)

・(2012年)「自著を語る—『近代中国の日本居留民と阿片』」、『近現代東北アジア地域史研究会 News letter』第24号(115-122頁)

白井 健二(情報システム学科・教授)

・(2013年) "Power-Law Distribution of Rate-Of-Return Deviation and Evaluation of Cash Flow in a Control Equipment Manufacturing Company", International Journal of Innovative Computing, Information and Control 9(3), (1095-1112頁)

近山 英輔(情報システム学科・准教授)

・白井健二教授執筆論文と共に著

アレクサンダル プラーソル(情報文化学科・教授)

・(2012年12月) 「江戸から東京まで往復—江戸時代の文化と風習」 (ロシア語) Moscow, Corpus-Astrel (528頁)

2) 学会・研究会・講演等

内田 亨(情報システム学科・教授)

・(2013年3月7日) 「広域災害避難者支援の現状と課題」 コメンテーター、地域デザイン学会東北・新潟地域部会公開研究会(新潟県立大学)

區 建英(情報文化学科・教授)

・(2013年3月26日) 「公開「書評会」—『東アジア思想交流史』」評論者(名古屋大学)
・(2013年3月29日) 公開講座「日本思想に関する一考察」(暨南大学、中国)

越智 敏夫(情報文化学科・教授)

・(2013年1月13日) 「原発新潟県民投票公開討論会」パネリスト(新潟市)
・(2013年1月26日) 講演「地方議会・議員の役割と議員定数について」(新潟市)
・(2013年2月19日) 講演「直接民主制と選挙」(新潟市)

上西園 武良(情報システム学科・教授)

・小林満男教授発表研究と共に著

小林 満男(情報システム学科・教授)

・(2013年3月16日) 「インタラクティブを取り入れた『情報システム』の教育実践」情報処理学会情報処理教育委員会主催ISECON2012インタラクション審査(専修大学)

小宮山 智志(情報システム学科・准教授)

・(2013年2月12日) 「地域コミュニティ協議会先進地事例報告」コミュニティ協議会に対する市の支援策についての調査研究事業拡大研究会(新潟市)
・(2013年3月19日) 伊佐瞳他「ネガティブ情報がもたらす購買促進効果の要因解明」第55回数理社会学会(東北大学)

・小林満男教授発表研究と共に著

佐々木 寛(情報文化学科・教授)

・(2012年11月24日~2013年1月28日) 「映画で語りかえる日本の『戦後』—私たちの「これから」を考えるために」(全5回) エクスデンションセンターオーブンカレッジ(本学中央キャ



越智 敏夫

戦争経験は無いけれども、戦争を素晴らしいと判断するにいたる別の経験をした人々である。

こうして同じ経験が多様に解釈されながら社会全体の認識は動いてゆく。大学についても同様である。

人間もいろいろで、本当に十人十色である。とはいっても、それぞれの頭の中はそれほど自由に自分で決定できるわけではない。

同じ経験

をした人

な多かれ少なかれ似たような考え方を持つようになるというのも当然である。この「みんな違う」と「みんな同じ」の間で人々は揺れ動く。

例えば戦争経験である。散々な目に遇つた人たちは「戦争は悲惨だ」と考えるようになるだろう。けれども「戦争は素晴らしい」と考える人々も実在する。彼ら／彼女らは戦争で素晴らしい経験をした人か、そうでなければ直接の

の差異もあるとはい、このような違いはどうして生じるのか。

大学が学生を差別することは絶対にない。大学としては皆さんが4年後になるべく後悔しないような環境を平等に提供したいと考え、実行している。その大学をどのように利用するのか。それは各人の責任と選択でしかない。はつきりいって、ここから先は皆さんの責任である。

どう過ごすか：自由と責任と選択

新入生の皆さんはこれから大学を経験する。けれども同じ大学を卒業しても、その大学への感想は学生によって千差万別である。学外での経験

しかし、そうした環境のもので、大学をサポートでも各種のNPOなど他の社会活動に参加する、あるいは自分で読みたい本をとことん読むといつた行為を選択する学生もいれば、ただ寝ているだけの学生もいるだろう。どれを取るのか。この差はあまりに大きい。4年後に気付いても遅いほどの大きさである。そして自戒も込めていうが、これ



写真部

学報表紙の写真でも活躍中の写真部です。本間章裕（元）代表（情報システム学科3年、当時）にインタビューしました。

Q. 最近の部の活動状況を教えてください。

—毎週水曜日昼休みに221教室で集会を開いています。メンバーや8名、女性12名の計20名で活動しています。集会では、今後の予定を立てたり、写真の展示方法や必要機材について話します。

Q. 写真部を一言でアピールしてください。

—「二期一会」。

Q. 写真を始めたきっかけは何か？

—思い出にしておきたいものがたくさんあって、写真を撮り始めたのがきっかけです。

新人生へ向けてのメッセージ

サークル紹介 Q & A

Q. どんな大会に参加していますか。

—2012

学報の表紙も飾っています

—みんなと切磋琢磨できるところです。

Q. あなたにとつて写真部とは。

本学は今年で開学20周年という記念すべき年です。今年入学する学生にとつてはまことに記念すべき年であります。本学科はさらなる発展を遂げる意味で「情報コース」と「経営コース」という2つのコースに分けることにしました。2つのコースに分けた意味は、より専門性を持たせることにあります。本学カリキュラムは、特定分野に偏ることなく幅広いカリキュ



白井 健二

情報システム学科長

新潟国際情報大学へようこそ。皆さんと出会い、大学生活と共に過ごせることを心よりうれしく思います。皆さんのがいまだ漠然と思いつ描いている夢を、きっと実現させてください。教職員一同全力でお手伝いします。

まず、ほとんどの皆さんは、小中高校を卒業され、その延長線上に大学進学があるとお考えになっていますが、それ違ひ



佐々木 寛

ます。大学では個々の目的や関心によって10人いれば10通りの進路が開けています。「みんなと一緒」、「周りがそうするから」という理由だけでは、本当に充実した大学生活を送ることはできません。何でも根本から自分で考えて自分で選び、その責任も全て自分で

きるだけでは、もうより善く生きられなくなりました。そればかりか、それが大きな不幸を招くことさえあるということが、例えば2年前の深刻な原発事故によつて明らかになりました。

つて「安心」していました。そしてその結果、まさに前例のない大事故が起こり、何十万、何百万という人たちの生活が脅かされ、何百年、何万年と解決することのできない負の遺産が遺されました。それが今の日本の偽らざる素顔です。

ラム体系を維持しながら、かつ専門性を持たせるようにしました。

情報システムとは「社会または個人の活動に必要な情報の収集・蓄積・処理（加工）・伝達・利用に関わる仕組みであり、単にコンピュータを中心とした技術的なシステムを示すものではなく、社会

環境や人間活動に深く関わる社会的なシステムである」という広い捉え方をしております。

情報コースは、情報を使い新しい価値を創造できる人材、情報システムの企画・設計・開発・運用のできる人材を育成する。また、情報システムを構築するた

る人材、情報システムを活用して経営のできる人材、自分で起業できる人材の育成を目指しております。あるいは、人間と社会に関わる分野を主体的に学修することで、環境の理解に基づいた情報の創造と利活用ができる人材の育成を目

一方、経営コースは将来の企業経営者、特に新潟で活躍できる経営者や新しいビジネスに挑戦でき

てあります。

（含むプログラミング）とネットワークに関する知識を習得し、情報システムを創造できる人材を育成することを目指して

近年、よく聞く言葉に「グローバル化」があります。グローバル化とは、言い替えれば「地球規模化」になります。社会的活動、経済的活動が国の垣根を超えて活動することになります。新潟においてもこのグローバル化の波を受けております。地域に貢献するためには、地域を支える自治体、あらゆる産業に人材を輩出することになります。グローバル化に対応するためには英語力が不可欠となります。

専門力（情報システム）と英語力を身に付けて、社会貢献できる人材に成長できるように頑張つていただきたい。

で負う、というのが大学の流儀です。つまり大学は、眞の「自由」を学ぶ場所だということです。なぜ「自由」を学ぶのか。それは現代の不確実な社会では、お決まりの生き方や方法はもう通用しなくなっているからです。前例を踏襲して権威に「おまかせ」で生

く、産業のない田舎に大きな富をもたらしました。危険性の問題はささやかれていましたが、「今までも大丈夫だからこれからも前例に倣えればきっと大丈夫だろう」という、今となつては甘い期待の上で放つて置かれました。つまり、それぞれが大きな組織によりかか

で、高校までの思い込みをいつたん捨てて、本学の最前線の「学問」を通じ、強勒でしなやかなホンモノの知性を獲得してください。それは皆さんにとって、不確実なグローバル化社会を生き抜くための最高の道しるべになると思いま

ホンモノの知性を獲得しよう

IS 2013
キャンパス
を参加できます!



お問い合わせ先 新潟国際情報大学 入試・広報課 ☎950-2292 新潟市西区みずき野3-1-1 TEL025-239-3111 FAX025-239-3690 E-mail nyushikouho@nus.ac.jp

晴れやかに留学・海外セミナー帰国報告会

語学力も人間的にも大きく成長…昨年度の派遣留学（情報文化学科）と海外夏期セミナー（情報システム学科）の帰国報告会が2月7日、みずき野本校の国際交流センターで開かれました。今回の参加学生は53人。実り多かつた初めての

世界の広さ多様さを実感



月間、エドモントンにあるアルバータ大学へ行つてきました。寮に前半は大学の寮で過ごしました。英語の授業がある建物から歩いて10分くらいのところにありますのでとても便利でした。寮には共有スペースがあり、そこでは皆と食事をしたりしました。後半にはホームステイが始まり、それぞの家庭でお世話になりました。大学からは遠くなつた。

私たち8月5日から約1カ月間、エドモントンにあるアルバータ大学へ行つてきました。寮に前半は大学の寮で過ごしました。英語の授業がある建物から歩いて10分くらいのところにありますのでとても便利でした。寮には共有スペースがあり、そこでは皆と食事をしたりしました。後半にはホームステイが始まり、それぞの家庭でお世話になりました。大学からは遠くなつた。

将来に生かそう貴重な体験

特に私が一番楽しかったことは、実践的な授業と多くの学生との交流でした。授業では、主に会話を書き取り・聞き取りの3教科で学習をしました。ほかには新聞の読解・歴史・太極拳の授業がありました。特に太極拳は中国の習慣を学ぶいい機会でした。

北京師範大学ではさまざまの国的学生が在籍しています。私のクラスには日本人以外に韓国・タイ・インドネシア・メキシコ・ドイツの学生がいました。

最初の頃は自分のことで精いつぱいでしたが、授業を理解できるようになつたころからはクラスメイトともコミュニケーションがとれるようになりました。授業ではそれぞれの国の料理や有名人などを紹介しあつたり、

にルームメイトが外国人と決まっていました。北京の寮につきました。彼は日本のジブリ映画やドラマ、芸能人などよく知つていて日本に興味があり、最初の頃はそれらのことをインターネットの翻訳サイトを利用しながら会話をしていました。その後翻訳サイトを利用しなければ彼が何を言つているのか聞き取ることができず、日常会話は全くできませんでした。また文化の違いから、彼の行動に戸惑い、理解できず、ストレスがたまることがありました。しかし、勉強や一緒に生活していくうちに少しづつではありますが、相手が何を話しているか聞き取り、自分の言いたいことを言えるようになりました。文化の違いも理解し、外国人とルームメイトになり、良い経験ができたと思います。

一方でこの留学では日本人との付き合いも非常に多かつたです。北京師範大学には日本人会という日本人留学生が運営するボランティア団体があり、大麥お世話になりました。日本人同士の交流や、イベントの参加を通してたくさん日本人と仲良くなることができました。なかでも、「北京の夜」というイベントは最高でした。そのイベントは、さまざまなかいの留学生がチームを作つて参加します。日本人会も毎晩、寒い中、気温がマイナスの日も外で練習したかいがあり、予選を勝ち抜き出場することができました。私たち

放課後にはクラス会をしたり、かけがえのない時間を共に過ごしました。たった半年間の留学でこれだけの外国人と関われたことは喜ばしいことであり、異文化を理解するうえでこのような交流はとてもいい勉強になりました。

Я скажу о преподавателях.
(先生方にうそてお詫びします)
Они очень добрые
любящие.
(彼らはいつも親切で愛情深い)
Мы ездили на море,
в лес и другой город с
преподавателями.

私たち 2月3日までウラジオストクの
極東連邦大学に約4ヶ月間留学
しました。早速ですが、少しロシア
語でお話させてください。

ロシアコース

情 報 文 化 学 科

山 口

そのステージで一世風靡の一前略道の上より「北京の夜」を踊りました。これまで忘れない思い出です。

（私たちちは、先生方と一緒に海や森、ほかの都市へ行きました）
Я очень люблю их.
(私は彼らが大好きです)
Спасибо.

たり、お酒を飲んだりしました。
もし、これが日本人なら、見知らぬ
韓国人が寮に入つてきても多く
の日本人は無視するでしょう
が、韓国人はそうはしません



中国



ロシア



韓玉

情報文化学科 細山 雄平

これから春休みを経て、元の学校生活に戻ります。しかし、留学以前の生活に戻つてしまつてはいけないと思います。私たちが得た大きな財産をどのように維持し、還元するかを考え上でこの春休みは大切な期間です。それは、私だけでなく留学生に参加した多くの学生が考えて

ロシアでお世話になつた先生方についてお話をさせていただきまつたが、残念ながら、私のロシア語は未熟です。しかし私は今回の留学で、皆さんの前でロシア語を話す度胸を身に付けてきました。これは、失敗したり後悔したりしながら成長してきました友人たちや、何度失敗しても温かく指導してくださいました先生方のおかげです。

私は韓国に対して正直、不安がありました。それは反日活動を取り上げるニュースなどを多く目にしていたのです。

しかし、現地でそのようなことは全くなく、むしろ韓国語をうまく話せない日本人の私に、も、寮の友人たちは積極的に話し掛けてくれ、一緒に卓球をしたり、お酒を飲んだりしました。もしこれが日本なら、見知らぬ韓国人が寮に入つてきても多くの日本人は無視するでしょ
うが、韓国人はそうはしませんで
した。売店や食堂のらばざん

いることだと思います。だから、先生方にはこれから私たちに期待して欲しいです。

4年前、私が新潟国際情報大学に入学を決めたときは、学生としてやらなければならないことをいつも考えていました。しかし、「就職難」という言葉がちらついて、何をしようかと考えばかりいました。そんな考え方を変えたのは、ナダ留学でした。ナダ留学という短い期間でし
たが、ホームステイを経験し、さまざまな国の人と出会い、多くの人とコミュニケーションを重ねることで、自分の狭い視野が大きく変わりました。「就職」という枠にとらわれず、自分が生きる上で何をしたいのかを考えるようになり、「考えるよ
うな時間でした。入学する前は、大學生だから毎日のんびり過ごせる！やつた！」と期待していましたが、実際に入学したら毎日ある授業、初めての「一人暮らし」、アルバイトで忙しい日々を送っていました。
本当にピックリするぐらいあつという間でした。
3、4年生になると授業数が減るので友達に会う機会も少なくなります。ましてや社会人になれば自分の時間さえ自由にならない時もあると思いません。在学生の皆さんには、たくさん遊んでもらいたいです！ご飯を食べに行ったり、私はゼミ旅行に行つたり。

<p>新入生・在学生には、私のように「就職難」という言葉において入学した人も少なくはないと思います。4年間その言葉に縛られて過ごすよりも、良好な友人関係を持ち、学びたいという意欲を忘れず、ぜひとも学生生活を謳歌して欲しいです。結果は後からついてくると思います。</p> <p>私はこの春から社会人として、自分がどう社会に貢献できるのか、どう生きるのかを考えながら働いていきます。</p>	<p>新入生・在学生には、私のように「就職難」という言葉において入学した人も少なくはないと思います。4年間その言葉に縛られて過ごすよりも、良好な友人関係を持ち、学びたいという意欲を忘れず、ぜひとも学生生活を謳歌して欲しいです。結果は後からついてくると思います。</p> <p>私はこの春から社会人として、自分がどう社会に貢献できるのか、どう生きるのかを考えながら働いていきます。</p>
---	---

時間の経つのが速かった大学生活でした。正直やり残したことがありますが、たくさんの思い出と出会い、そしてたくさん仲間をつくることができました。大学生生活で一番印象に残つてゐる出来事は、就職活動です。初めて「自分」を企業に売り込むと、いうことに戸惑いがあり、自分をアピールしようとつても、「自分」には何が強みで何が弱みであるのか理解できてしまはず、うまく伝えることができませんでした。そこで、大学のキャリア支援課に相談したり、直接企業の人事課の方に相談したりしました。私はもともと積極的な性格ではなく、大学での勉強にもあまり熱心ではありませんでした。しかし、地元の商店街の活動を見るうちに、地域の活性化について興味を持ち、自分から学ぼうと思うようになります。

湧源 ゆうげん
入試広報委員 内田 亨
編集後記に代えて

昨年、本学のホームページを改定した。その基盤となるコンセプトは、スマートフォンにも極力対応できるよう、「シンプル＆ビジュアル」である。ホームページによつて、できるだけ本学の情報を発信して、本学について人々に理解してもらいたいと思っている。おかげさまで現在までのところ、順調に運用されている。ホームページに対する総合評価アンケートも試験的に運用した。

また本年には、本学のFacebookが立ち上がつた。

(<https://www.facebook.com/nuis.face>)

本学のFacebookでは、大学の「イベンム、ニュースなどさまざまな最新情報がアップロードされている。このFacebookを通して利用者が交流し、気軽にコミュニケーションを楽しんでいただければ、とわれわれは思つてゐる。3月27日現在、30ほどの投稿があるが、学生や教員の「手触り感」のある写真がアップロードされてゐる。これによつて、ヴィヴィッドでフレッシュな情報が提供されることになる。例えば、卒業式や卒業記念祝賀会の写真を見てほしい。みんな4年間の「偉業」」を成し遂げたのか、大変うれしそうである。また、国際交流インストラクターやゴルフ部合宿の写真を見てほしい。これらは学外での活動である。みんな生き生きとした顔をしているように見える。

大学とは、勉学および部活・サークル活動、社会貢献活動を通して教養・人間形成をしていく「場」である。こうした充実した学生生活を送ることができる「大学」とは、なんと良いところなのか。時間と空間を学生と共有できる教職員にとつてもかけがえのない世界である。

計画きちんと遊び学んだ

情報文化学科 石田 万貴

卒業にあたつて たくさんのおかいと仲間たち

さまざまな国の人と出会い、多くの人とコミュニケーションを重ねることで、自分の狭い視野が大きく変わりました。「就職」という枠にとらわれず、自分が生きる上で何をしたいのかを考えるようになり「考えるよ

視野が変わってまず行動 情報システム学科 中

情報システム学科 中野 沙紀

忘れず、ぜひとも学生生活を謳歌して欲しいです。結果は後からついてくると思います。

私はこの春から社会人として、自分がどう社会に貢献できるのか、どう生きるのかを考えながら働いていきます。

「自分」意識した就職活動

情報文化学科 小野澤 慶

情報文化学科 小
に感謝しています。見守つてくれていた両親
ア支援課の方々、ずっとお世話になつたキヤリ
興味を持ち、就職活動に生かしてほしいと思いま
す。在学生には、「常に行動する」ということを章
識し、いろいろなことに興味があります！

上がつた。

湧源 ゆうげん
編集後記に代えて

入試広報委員 内田 亨

昨年、本学のホームページを改定した。その基盤となるコンセプトは、スマートフォンにも極力対応できるよう、「シンプル＆ビジュアル」である。ホームページによって、できるだけ本学の情報を発信して、本学について人々に理解してもらいたいと思っている。おかげさまで現在までのところ、順調に運用されている。ホームページに対する総合評価アンケートも試験的に運用した。

また本年には、本学のFacebookが立ち

湧源

編集後記に代えて

学長式辭



新潟国際情報大学長
平山 征夫

学び、考え、判断して
たじろがずに生きよう

本日、ここに新潟国際情報大学の第16回卒業式を迎えるに当たり、まず初めに卒業生の皆さんに心から「卒業おめでとう」と祝福の言葉を贈ります。

また、ご父母の皆さまにも併せてお祝い申し上げたいと思います。ご臨席いただきましたご来賓の方々には御礼申し上げます。新潟国際情報大学の役員、教職員一同を代表いたしまして皆さまに御礼とお祝いを申し上げます。

卒業生の皆さんには今、卒業の喜びと4年間のたくさんの思い出で胸がいっぱいのことと思います。同時に4月からの社会人としての新たなスタートへの期待と不安もあることでしょう。4年前、皆さんは大きな希望を持って本学に入学してきました。そして4年の歳月がたちました。みずき野でのキャンパスライフはどうでしたか。恵まれた自然の中でスポーツにいそしみ、友人と友情を育み、そして先生方の温かい指導のもと勉学に励んだ大学生活は、その思い出とともに皆さんのが最も輝いていた青春の尊い記念碑になるでしょう。

今春、みずき野から巣立つてゆく卒業生は、情報文化学科111名、情報システム学科175名、合計情報文化学部286名です。

が正しいのだろうか。欧米先進資本主義国にとつて代ろうとしているB R I C S等の新成長国は「国家資本主義」といわれる国々だけれど、これらの国がプレゼンスを増すとき、世界のルールはどうなるのか、民主主義的に後退のリスクはないのだろうか。

服した時、初めて人生の喜びが待っているのです。問題の克服に当たっては、この大學で学んだことが、考え方判断し、そして行動する力となつて皆さんを支えてくれるでしょう。全力を尽くした人生なら、納得もできますし、悔いもないでしょう。一度の人生です。納得のゆく人生を送ってください。そのためには、常に夢を持つて青春の心でそれを全力で追い求めてください。

心でそれを全力で追い求めてください。

4年前の卒業式で、卒業生に対しサミニエル・ウルマンの「青春」という詩を餞に贈りました。それは「青春とは人生の在る期間をいうのではなく、心の様相をいうのだ」というもので、青春は若い肉体に宿るのではなく、若い精神に宿るということを言っています。ですからウルマンは、詩の中で「年を重ねただけで人は老いない。理性を失うときに初めて老いる。希望ある限り若く、失望とともに老い朽ちる」と言っています。皆さんにそのことをもつと具体的に感得してもらいたいので、ヴィクトール・E・フランクルというオーストリアの精神科医の書いた「夜と霧」という本を紹介したいと思います。

フランクルはユダヤ人というだけで、ナチスの強制収容所に入れられ極限状態を経験した上で、奇跡的に生還した人です。その経験を綴ったのがこの本です。ナチスの強制収容所関係の本として「アンネの日記」と並んで有名な本です。私も若い時読んで大きな感動を覚えたことを覚えていましたが、昨年8月某TV局の「名著を読む」という番組で採り上げられ少し話題になりましたので、読まれた方もおられるかと思います。この本は出版されると世界中で読まれ、多くの人に感動を与え、今でも読まれるロングセラーとなりました。

それはこの本が単にナチス収容所の極限体験を記録したものではなく、そこで命を失つていった多くの人の死に臨んだときの

「精神科和田の書いた『死と氣』」といふ本を紹介したいと思います。

フランクルはユダヤ人というだけで、ナチスの強制収容所に入れられ極限状態を経験した上で、奇跡的に生還した人です。その経験を綴つたのがこの本です。ナチスの強制収容所関係の本として「アンネの日記」と並んで有名な本です。私も若い時読んで大きな感動を覚えたことを覚えていましたが、昨年8月某TV局の「名著を読む」という番組で採り上げられ少し話題になりましたので、読まれた方もおられるかと思います。この本は出版されると世界中で読まれ、多くの人に感動を与え、今でも読まれるロングセラーとなりました。

それはこの本が単にナチス収容所の極限体験を記録したものではなく、そこで命を失つていった多くの人の死に臨んだときの

「精神科和田の書いた『死と氣』」といふ本を紹介したいと思います。

フランクルはユダヤ人というだけで、ナチスの強制収容所に入れられ極限状態を経験した上で、奇跡的に生還した人です。その経験を綴つたのがこの本です。ナチスの強制収容所関係の本として「アンネの日記」と並んで有名な本です。私も若い時読んで大きな感動を覚えたことを覚えていましたが、昨年8月某TV局の「名著を読む」という番組で採り上げられ少し話題になりましたので、読まれた方もおられるかと思います。この本は出版されると世界中で読まれ、多くの人に感動を与え、今でも読まれるロングセラーとなりました。

それはこの本が単にナチス収容所の極限体験を記録したものではなく、そこで命を失つていった多くの人の死に臨んだときの

行動を観察し、最後まで生きがいを求めて死んでいった崇高な人間の精神を見出し、そこから「人生の意味と使命」の根本を見出そうとしているからです。絶望から全く何も感じない「無感覺人間」になる人、高圧鉄線に飛び込み自ら命を断つ人、死んでゆく仲間のパンや靴を奪う者がいる一方で、仲間に自分のパンを与え、励ましている人もいるのです。そしてこの過酷な収容所で人に生きる力を与え、少しでも生きようさせたものは、肉体の頑健さではなくて、精神性の高さ、豊かさであることに気付くのです。フランクル自身は、収容所に入れられる前に手がけていた原稿の完成に生きがいを見出しています。この本を読むと生きがいを持つて絶望状態の中を生きた人々に感動するだけではなく、不思議に生きる勇気が湧いてきます。永い人生でもし苦しい状況に至つたら、この本を思い出して読んでください。きっと勇気が湧いてくるでしょう。

今月11日に東日本大震災から2年という

理事長祝辞



学校法人 新潟平成学院
理事長 関根 秀樹

人生ドラマを演ずる主役
自分を大切に真摯に生きよう

本年の積雪はあまり多くはありませんでしたが、寒さは例年になく厳しいものでした。

さて、皆さんが学んでいた4年間に、大震災と原発事故という未曾有の大災害を私どもは経験いたしました。先日、3月11日を迎えたが過ぎたのですが、その復興と事故の収束の見通しは立つておらず、いまだに不自由な生活を送られている方々に心からお見舞いを申し上げる次第です。現在の日本は、少子化がますます進み、社会保障も財政も屋台骨が揺らぎ、先の見えない状況の中にあります。本年に入つて、政治的にはいかんか安定し、このところ世界経済も、2008年のリーマンショックの不況がようやく底を打つて、日

ことで、たくさんの報道がありました。この震災で1万8千名強の方が亡くなり、2千8百名余のまだ行方不明の方がおられます。多くの方が大事な家族、友人を亡くし、どん底からの復興に取り組んできました。だが、遅々として進んでいません。「時間が心の傷みを癒してくれる」というのは、あまりに大きな悲しみの前では全くの虚言でしかありません。時間はかえつて悲しみを深めているようにすら見えます。復興の遅れがさらなる精神的被災者をつくり出します。仕事が無くやむなく故郷を離れる人もいます。この間、政治は何をしたのだろうか、またわれわれ隣県に住む者は何をしてあげたのだろうか。がれき処理を巡つて知事と市長が対立しているのだろうか、など種々考えさせられました。私にできたことは、石巻市に住む大学時代の友人に電話をかけて励ますぐらいでした。

そして大震災の報道を見ていて、あらためてフランクルが「夜と霧」で指摘した「どんなときも人生には意味がある」といふ言葉を思い出しました。それはどんな逆境でも生きる意味を見出すことが、人間として生きてゆくうえで大切であることを教えています。被災された方々が時間とともに絶望に向かうのではなく、希望の方に向かってほしい、そうなるようにはどうしたら良いかと考えていました。

卒業生諸君は今、希望に満ちた精神の中におられます。今すぐフランクルは必要はないでしょうか、将来どんな状況におかれたとしても「人生には、生きることには意味がある」ことを忘れないでください。フランクルは最後に「悩んで悩んで悩みぬくこと」と苦しんで苦しんで苦しむこと。そして「人生には、生きることには意味がある」と言っています。悩み苦しむことも意味があると言っています。大切なことがもう一つあります。こうした精神にいたるには、卒業後も引き続き学び、考え、判断するということを続けることが大切だということです。そうすることで他人のことを思いやれる他人に信用される優しい人間になることが「自立した人間になる」ことの目

的であるからです。そのことも申し添えておきたいと思います。卒業後も本学に熱い想いを寄せ続けてください。本年、本学は創立20周年を迎え新たなスタートを切ります。引き続き本学が地域に必要な大学であるだけでなく、多くの卒業生にとつて、誇りの持てる母校であり続ける責任が私たちにはあると思っています。そのためにも卒業生の支援・激励が重要なのです。これからは皆さんと卒業生としてお付き合いできることを楽しみにしています。街ですれ違つたら声を掛けてください。傍に夫や妻や子供さんがいたりして「おお！いい人生送っているな」と感じさせてください。卒業として大きな幸せです。

みずき野にも間もなく20回目の春が訪れます。そして皆さんの後輩を迎えます。季節は巡り人々はまた新たな人生に立ち向かいます。皆さんは社会人としての人生に歩み出します。そんな皆さんにあらためて卒業おめでとうと申し上げますとともに、その前途に幸多かれとエールを送つて私のお祝いの言葉いたします。



JABEE認定プログラム

8人に修了証書

取得学生が100人超す

卒業式に先立って、JABEE(日本技術者教育認定機構)情報システム技術プログラムの修了証書授与式も行われました。

平成24年度の同プログラムを無事修了したのは8人で、学長が修了証書を授与し努力をたたえ今後の活躍を激励しました。

このプログラムはJABEEが認定する教育制度で、情報システムを開発する技術者になるために必要な教育を受けたという社会的評価が与えられ、修了生は文部科学省令で定める国家資格である「技術士」の第一次試験免除の優遇措置が受けられ、また所定の登録を行うことによって「技術士補」の資格を取得することができます。

これまで本学情報システム学科を卒業し修了証書を取得した学生が合わせて101人となりました。

